

# 初級クラスにおけるディクテーション

## —ウィーン大学での実践報告—

マダドナーめぐみ（ウィーン大学）

megumi.maderdonner@univie.ac.at

### 【要約】

ウィーン大学東アジア研究所日本学科の日本語初級クラスでは、初期の段階からディクテーションを実施し、文字の矯正と定着、日本語の音の認識、さらに文を聞き取って書くことで文型、語彙の習得と総合力の育成に成果をあげている。今後の課題として漢字の扱いが挙げられる。

### 1. はじめに

ウィーン大学東アジア研究所日本学科の日本語教育では、2005年より初級日本語クラスにおいてディクテーションを取り入れている。本稿ではウィーン大学の初級クラスで行っているディクテーションについて、その実践を報告し、ディクテーションが初級学習者の日本語習得にどのような効果をもたらすかを考察する。

### 2. ディクテーションとは

ディクテーションとは、音声を聞き取り、聞いたことを正確に文字に書き移すトレーニングで、英語教育では文法・語彙の知識などを含んだ総合練習として盛んに行われている。その利点として、どこが聞き取れていなかったかが鮮明に分かること、集中して聞き取ることによる学習効果の高まりがあげられる。

情報を音声に限定していることによって、日本語教育においては、まずごく初期段階での長音や促音などの特殊音素の認識や、清音・濁音など似た音の識別、その後は聞き取った文を書き取ることによって英語教育同様、総合力を育成することが期待される。

### 3. ディクテーション導入までの経緯

2003年の修士課程導入以来、ウィーン大学の日本語教育はオーストリア人教師が行う理論日本語、文字教育、文法、日本人教師が行う実用日本語、ラボ、に分かれていた。このうちラボは週1時間で、実用日本語の授業の直前または直後に組み入れられ、名称こそラボであったが、実際には実用日本語の授業と一体で行われていた。もちろんラボと組合わさった日の授業には、聞き取り練習を多くするなどしたが、実際には独立していなかった。このラボの授業の評価として、聞き取りテスト、話すテスト、筆記テストを行っていたが、2005年から授業で本格的にディクテーションを取り入れ、テストにも筆記テストの代わりにディクテーションを取り入れた。

2011年秋からの新カリキュラム導入以来、実用日本語1、2とも週6時間となり、ラボの授業はなくなった。しかし、ディクテーションに効果を感じていたため、引き続き授業での練習を続け、

評価の対象となっている。

#### 4. 目的

ウィーン大学の初級日本語クラスにおいて、ディクテーションの目的は初期とそれ以降によって以下のように分かれる。

① ひらがな導入時：

ひらがなの定着、形の訂正  
清音、濁音の識別  
長音、促音などの音素の認識

② それ以降：

聞き取り力の向上  
文法、語彙、特にカタカナ語の定着  
日本語のトーンに慣れる  
日本語を書くことに慣れる

#### 5. ディクテーションの実際

##### 5-1. いつ行うか

第2回目の授業から、7回目の授業でひらがなテストを行うまでは、毎回。その後は週2回の授業の1回の冒頭15分を使う。

##### 5-2. 内容

第1回目の授業でひらがなの「あ」から「ん」までを導入し、2回目から濁音、拗音、促音と段階を追ってひらがな表記を導入し、授業では教師が示すひらがなカードをどんどん読ませ、毎回宿題のひらがな練習プリントを配る。初めの2回の授業では、ひらがなそのものを覚えたかどうかを認識させるため、練習プリントに出て来る語彙を中心にノートに書かせ、その場でフィードバックする。また、教科書（新文化日本語初級）では、はじめから漢字まじり文が使われているため、そこに出て来た語彙が導入した表記に合っていればそれを出す。たとえば「すみません」は第2回目に、「おはようございます」は濁音長音導入の次の回に出している。

第4回目もしくは第5回目の授業から用紙を配り、ディクテーション後集めて教師がチェックをしている。ここではまず、第7回目の授業で行われるひらがなテストの練習も兼ねてローマ字をひらがなにする問題を5題、その後ディクテーションを7題出す。その内2題は教科書で既習の表現とする。

(図1)

- |    |                 |    |        |
|----|-----------------|----|--------|
| 1  | udon うどん        | 6  | ぎゅうにゅう |
| 2  | chikatetsu ちかてつ | 7  | えんぴつ   |
| 3  | zasshi さっし      | 8  | おおきい   |
| 4  | ryokoo りょこう     | 9  | ちょっと   |
| 5  | kingyo きんぎょ     | 10 | さようなら  |
| 11 | ほんをあけてください。     |    |        |
| 12 | しつれいします。        |    |        |

(図1) ひらがなテスト前の出題例

ひらがなのテスト以降は1回おき、つまり週に1回の頻度でディクテーションを行う。ディクテーションに出す文は毎回5〜6文で、その前の授業で学習した文型、語彙を中心に、これは是非頭に入れてほしいと教師が考えている既習の文型、語彙を入れた文を使用する。3〜4題は比較的短い文、少なくとも2題は比較的長い文、例えば問いと答え、複文としている。

- 1 コーヒーをください。
- 2 いまなんじですか。4じです。
- 3 なつやすみは7月3日からです。
- 4 これはだれのノートですか。  
それはわたしのです。
- 5 あれもよしださんのですか。  
いいえ、あれはわたしのじゃありません。

(図2) ひらがなテスト後第1回目の出題例

- 1 にもつが99いのでタクシーで行くことにします。
- 2 休みにあったら、アルバイトをするつもりです。
- 3 山本先生はいつウーブンにいらっしゃったんですか。
- 4 これ、オーストリアのワインなんですがどう飲み上がって  
ください。
- 5 ごはんを食べに行くなら、あのレストランが  
おいしくていいですよ。

(図3) 2学期目最後の出題例

### 5-3. 方法とチェックの重点

1文を3回繰り返して読み、最後に全文を通して聞かせる。3回の繰り返しのうち、1回目は幾分ゆっくり目ではあるが普通のスピードで文の意味を理解することを目的としている。2、3回目は少しゆっくりと読むことで、書き出す時間を与えている。最後の全文を通して聞かせるときは、普通のスピードで読み、間違いがないかチェックをさせる。全文を通して聞かせた後、少し時間を与えてさらに見直しをさせる。用紙回収後、すぐさま答えをプロジェクターに映して確認する。

教師のチェックは初期ではひらがなの形に特に注意を払う。第1課学習後のディクテーションでは、時刻、日付にはアラビア数字もしくは漢数字を使うということを強調する。漢字で書ける部分は漢字にするよう、また、新たに出て来たカタカナ語だけは確実に覚えるように指導する。

それ以降は、既習の文型が使えているか、動詞の一て形の形が正しいか、など総合力を見ている。

### 5-4. 評価

ラボの授業1時間に独立して成績をつけなければいけなかった2011年夏学期までは、聞取り30%、話すテスト40%、ディクテーション30%の割合であったが、2011年冬学期以降は評価全体の7%を占めている。

## 6. 考察と今後の課題

ディクテーションの利点として以下のことが挙げられる。

① 初期の段階では文字の形の矯正に役立つことがあげられる。宿題プリントでも矯正を行っているが、それを補強できる。しかしながら、これは学生が添削されて返却されたものをきちんと見直した場にに限られる。

② 同じ語彙を繰り返して出題することで語彙の定着がはかれる。これは特にカタカナ語で効果があった。例えば「ヨーロッパ」「オーストリア」「ウィーン」は、確実に身に付けてもらいたいカタカナの単語として頻繁に出題したが、最終のテストで間違えた学生は非常に少なかった。

③ 文の構成が分かってないと書けないので、教師の側は何が分かっていないのかが把握できる。

④ 既習のものしか出さないで、学生の側は復習をすることが大事だとわかる

⑤ 早いうちから聞いて理解したことを書き出す練習ができる

⑥ 日本語を書くことに慣れる

⑦ 日本語の音に慣れる

⑧ 聞き取れない語は目で覚えて書くことで定着しやすくなる。たとえば、割と早い時期に学習する「りょうこ」、「れいぞうこ」などはまずひらがなで書くことになる。この時「りょうこ」、「れいぞこ」などの例がよく見られる。また、「おふろにはいて」が「おふろにはいて」となる例が非常に多い。これも何度も繰り返し出題し、その度に強調することで、定着がよくなっている。

今後の課題としては、漢字をどこまで要求できるかがあげられる。授業では毎週10字、1年間に210字を読めて書けるように導入しているので、習った漢字は書く、というのが望ましいが、ディクテーションではひらがなで書いても間違いとは言えない。最後に漢字で書ける部分を漢字にする時間を与えてはいるが、中には最後のテストでもひらがなのみの学生がいる。現在のところ、漢字がない

から減点とはしていないが、日本語の総合力を評価するのであれば、やはり、今後最低限書かなくてはいけない漢字を決めるべきであると考えている。

### 参考文献

フォード丹羽順子（1996）「日本語学習者による聴解ディクテーションに現れた誤りの分析 : 文法および音声的側面に焦点を当てて」 <<http://hdl.handle.net/2241/15369>>（2012年8月16日）

ディクテーションとは？英語教材ナビ<<http://www.ekh-navi.com/glossary/dictation.html>>（2012年8月16日）

ディクテーション／はてなキーワード

<<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%A5%C7%A5%A3%A5%AF%A5%C6%A1%BC%A5%B7%A5%E7%A5%F3>>  
（2012年8月16日）

ディクテーションのやり方 その1 <<http://trilingue.exblog.jp/12404428/>>（2012年8月16日）

ディクテーションのやり方 その2 <<http://trilingue.exblog.jp/12414655/>>（2012年8月16日）